

に立つ霜柱に長いのは五種も七種もある、防火用水に池にはりつめた厚い氷、子ども達はつめたいよりも面白さで、お菓子やこつこがはじまつたりする。暖い地方でも、はくいきが白い煙のやうになる日はあるだらう。子ども達にとつてはつめたい水もつ

ららも霜柱もいゝおそび材料であり、いゝ觀察材料であるのだからただ禁止するばかりでなくて、注意して遊ばせ乍ら指導し度いものである。いつか口の少しせばまつたために氷がはつた。上のところがそつくり外れたのでその形のまゝ出さうとして子どもも同志大へん苦心した。その大ぜいのさわぎを倉橋先生が御らんになつて、加勢して下さつてうまくとり出して大喜びの歡聲を上げたことがあつた、又その氷の表面がでこぼこなのが問題になり、どうしてかといろ／＼考へたらしかつたが結局疑問であり、私も亦解決は興へなかつた。その氷を水のしたゝる蛇口に置いたら穴があいて大變面白かつたことであつた。大寒でも何でも子どもは風の子で元氣なので暖いのであるからこんな寒くてもこんなに元氣だといふ喜びを子ども乍らに感じさせるやうに遊ばせ度いものだと思ふ。

談話

安村ふさ

「二重橋のお話」 大東亞戦下に再度迎へる新年。上御一人の大稜威の下、勇士の方々の奮戦により、かくも赫々たる戦勝の中に

迎へられる新年。然も昨年のそれよりは大東亞建設の響き高きこの年——心は愈々おほらかに朗けく、愈々つゝましく引しまるのを覺える。

大君まします都に住む者にとつて、新年のはじめに謹み行ふ事は二重橋前に於ける宮城の遙拜である。爽々しい新年の朝早く、瑞雲たなびく大内山の前に、新しい年のよき祈言を申上げて寶祚の無窮を祈りまつる時、私達は日本人とこの聖代に生れた喜びを、ありがたさをひし／＼と感ずる。此の敬虔なる感激、それは上代から私達祖先の血の中に脈々として傳つて來たものである。私達はこの敬虔なる感激を幼兒等に傳承しなければならぬ。私達はあの御前にぬかづいた時の敬虔な感激を、敬虔な態度、言葉で幼兒等に語らう。幼兒等は私達日本人たるのありがたさを、喜びを其の中から感得してくれる事であらう。都に住む幼兒等は必ずや二重橋の御前にその父母達と共にぬかづいたものであらうから。

扱地方に於ける幼兒等の場合はどうであらうか、彼等は新聞等に謹載してある御寫眞で腰く拜する機会があるのであるが、或ひは幼い故に淡く心に留つてゐるものもあらう。で、此の新年に當つて特に、大君まします宮居であること、この御前に明けき心でぬかづく事が日本人として最高の喜びである事を感じしめたいと思ふ。それには童話にでも仕組んで話すのも一方法かと思はれる。例へば、こどもが兩親と遙拜に赴く事を骨子とし、語りたいたいことを、親子の對話にでもして言葉に注意しつゝ盛りたいたいと思ふ。

尙「國旗」についてであるが、之は四月のはじめに話した事であ

り、幼児等はよく自由畫に描き充分感得してゐる様であるが、かうした新年の改つた機會にやはり童話等にでも仕組んで、我が日の丸は、明るき、清き、直き心を象徴してゐて、國家的に意義のある時に掲げられる所以を充分悟らせ、併せて形態に關する正しい觀念も與へたいと思ふ。

「幼児演出七匹の小山羊」 系統的保育案の實際によれば六月の半ばに談話で、十月の末に人形芝居で幼児に大分親しくなつてゐる七匹の子山羊、此の度は幼児の演出である。元來幼児は話よりも動作のついたものの方を喜ぶ事勿論であるが、今まで單に聞き、見てゐたものも自分達が演出する事によつてその話の面白さも充分に分る様になると思ふ。幼児演出は保育案によれば此一つであるが必ずしも此に限らない事は勿論である。たと劇的要素に富み、或程度話の性格を幼児等が擷んでゐるものを選ぶ事が必要である。はじめは保姆が中心になり、主役を受持つて演ずるのである。ことばも注意して選び簡潔なものを用ひる。背景や道具等もあればよいのであらうが、何ものでもすぐそのものにみだてる幼児にはその爲に特別に作らなくても充分に遊べる様である。私の受持つてゐる年長組の女兒十一人はよくまとまつて遊ぶが、年少組のこの頃に七匹の子山羊を保姆が中心になつて數回演じたが、ことばのはしく、動作までよく覚えて居り、一年後の今日でも折にふれ時に應じて演じてゐる。衆議一決すれば保育室であらうと園庭の一隅であらうとたちどころに開演といふ有様である。幼児等の懂れの役は、食べられない子山羊と親山羊。嫌ふのは

狼。道具としてはストープは二人の子が手をつないで丸くし煙突は其の傍においてある椅子の上に一人が立ち、時計は扉の把手である、と例へばその様にその場々で忽ち揃つてしまふ。之を演じたのがきつかけになり、此の頃では舌切雀、一寸法師、三匹の子豚等、練習もなしに直ちに開演出来る有様である。時には一日でも愉快げに遊び私まで時の經つのも忘れて視覽してしまふ事がある。室内に於ける遊びが多くなる此の頃、適當に組を作つて演じさせ、互ひに見物するのも又愉快であらうと思ふ。

手技

及川ふみ

寒い季節の保育は、室内保育に一日の大部分を過す様に餘儀なくされる日が多い。こんな時には又おちついて、幼児たちにさせる遊びや仕事を數多く考へておいて、外遊びの多い季節に出來がたいところの補ひをするといふ事も考へられる事である。

模様かき(一) 幼児たちに、自然の遊びのうちに、數の觀念を進める上に、又觀察のよい機會を作る爲にも模様かきの面白い遊びが出来る。

これをこゝろみ初めたのは十一月のはじめの頃、園庭に、いてふ、つた、どんぐりなどの澤山おちてゐる季節であつた。

拾つた葉をおしておいて、お帖面にはつて遊んだり、つたの葉柄では毎日、龜を作つて遊んだものであつた。とりわけいてふ